

令和5年度

大阪府・大阪市

おおさか
環境にやさしい
建築表彰作品集



Osaka Environmentally Friendly Architecture Award

主催 大阪府・大阪市

パンフレット作成協力：(公社)大阪府建築士会、(公財)大阪府都市整備推進センター、
(一財)大阪建築防災センター、(一社)大阪府建築士事務所協会、
(一財)日本建築センター、(一財)日本建築総合試験所、
(一社)不動産協会関西支部、近畿建築確認検査協会

はじめに

大阪府と大阪市は、気候変動を緩和し快適で住み良いまちをつくるため、建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律や、府市それぞれの条例に基づく建築物の環境配慮制度により、建築物の省エネや省CO₂等に取り組んでいます。

建築物の環境配慮制度とは、温暖化やヒートアイランド現象の一要因ともなっている建築物に着目し、一定規模以上の建築物の新築・増改築等を行う建築主に対して、省エネルギーをはじめとする総合的な環境配慮レベルの評価とその届出を義務付け、環境にやさしい建築物の普及促進を図ろうとするものです。

普及促進の一環として、大阪府の「大阪サステナブル建築賞（大阪建築環境配慮賞）」と、大阪市の「CASBEE大阪OF THE YEAR」を統一した「おおさか環境にやさしい建築賞」により、特に環境配慮に優れた建築物の建築主及び設計者を表彰しています。このことにより、建築主等の環境に対する自主的な取組を促進し、良好な都市環境の確保と、環境にやさしい建築・まちづくりに対する意識の高揚を図っています。

この作品集は、表紙に記載の団体のご協力を得て発行していますが、一般の方、特に建築や設備関係を学ぶ学生などに先進的な環境配慮の取組みを広く知ってもらい、将来に役立てていただくとともに、本パンフレットを通じて建築環境への理解がより深まっていくことを期待しております。

審査・選考

表彰建築物は、大阪府気候変動対策の推進に関する条例または大阪市建築物の環境配慮に関する条例に基づき届け出された建築物で、令和4年度の間に関工完了し、かつ、CASBEE評価がSあるいはAであるもののうちから、「大阪府建築物環境配慮制度に関する検討会」、「大阪市建築物環境配慮推進委員会」にて選考されました。

委員名簿

令和5年度大阪府建築物環境配慮制度に関する検討会委員名簿（50音順）

木多 彩子	高知工科大学 システム工学群社会システム工学教室 教授
○西岡 真稔	大阪公立大学大学院工学研究科都市系専攻 教授(座長)
松原 茂樹	大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻 准教授

令和5年度大阪市建築物環境配慮推進委員会委員名簿（50音順）

木久保規子	大阪大学大学院法学研究科 教授
岸本 嘉彦	大阪公立大学大学院工学研究科 准教授
木多 彩子	高知工科大学 システム工学群社会システム工学教室 教授
○西岡 真稔	大阪公立大学大学院工学研究科都市系専攻 教授(委員長)
松原 茂樹	大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻 准教授

建築物環境総合性能評価システム (CASBEE) とは

産官学共同プロジェクトとして開発された、建築物の環境性能を評価し格付けする手法で、省エネルギーや環境負荷の少ない資機材の使用といった環境配慮だけではなく、室内の快適性や景観への配慮なども含めた建物の品質を総合的に評価するシステムです。

(CASBEE : Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency)

CASBEE 評価のしくみ

環境品質 Q (Quality)

- 室内環境
- サービス性能
- 室外環境 (敷地内)

環境負荷 L (Load)

- エネルギー資源・マテリアル
- 敷地外環境

BEE = $\frac{Q}{L}$

建築物の環境品質 Q (Quality) のスコアを建築物の環境負荷 L (Load) のスコアで除して算出される指標である、建築物の環境性能効率 BEE (Built Environment Efficiency) により、5段階で格付けします。

ランク	評価	BEE 値ほか	ランク表示
S	素晴らしい	3.0 以上、かつ Q=50 以上	★★★★★
A	大変良い	1.5 以上 3.0 未満	★★★★
B+	良い	1.0 以上 1.5 未満	★★★
B-	やや劣る	0.5 以上 1.0 未満	★★
C	劣る	0.5 未満	★

より良い環境品質(Q)の建築物をより少ない環境負荷(L)で実現するための評価システム

建築物環境性能表示 (ラベル表示)

CASBEE 評価と重点項目である CO2 削減、みどり・ヒートアイランド対策、建物の断熱性、エネルギー削減、太陽光発電その他再生エネルギーの利用や自然エネルギーの直接利用について、建築物の環境性能をわかりやすく示しています。

例) 大阪府のラベル

再生可能エネルギー利用設備の導入状況
太陽光発電設備などの再生可能エネルギー利用設備が導入されているかどうかを示してします。桜マークの表示があれば、該当設備を備えた環境配慮建築物であることがわかります。

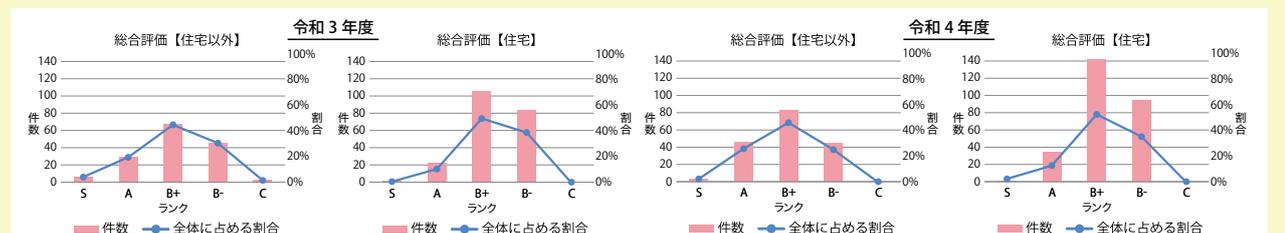
自然エネルギー直接利用
自然通風や屋光利用などのように、自然エネルギーを直接利用しているかどうかを示しています。

CASBEEの総合評価
CASBEEの評価項目に基づき、環境性能を総合的に評価した結果を示すもので、星マークが多いほど優れています。

重点項目の取組みの評価	具体的な取組みの事例
CO2 削減	<p>トップライトによる自然採光</p> <p>高炉セメントの使用</p> <p>パイオガス施設 (メタン発酵槽)</p>
みどり・ヒートアイランド対策	<p>屋上緑化</p> <p>ウォーターミスト設置</p> <p>敷地緑化</p>
建物の断熱性	<p>Low-e 複層ガラス</p> <p>ルーバーによる日射遮蔽</p>
エネルギー削減	<p>高効率給湯器</p>

届出建築物の総合評価結果の分布状況

届出全体に占める S(星5つ)または A ランク(星4つ)の割合は、住宅、住宅以外のいずれの用途においても 10~30%程度となっています。特に S ランクの建築物は届出全体の数%程度と少なく、環境配慮に優れた建築物であるといえます。



※令和3年度、令和4年度に大阪府及び大阪市の条例に基づき届出のあった建築物のCASBEE総合評価の結果について、令和5年9月末時点で届出内容の確認が完了しているものを対象として集計

令和5年度おおさか環境にやさしい建築賞 審査講評

【総 評】

大阪府気候変動対策の推進に関する条例ならびに大阪市建築物の環境配慮に関する条例に基づき届け出された建築物のうち、本賞に応募のあったものについて、環境配慮を目的とした建築的計画・工夫における独創性・先進性、調和性・統合性、取り組み姿勢・効果などについて総合的に審査し、各種の賞に相応しい建築物を選考した。

本賞の選考に当たっての評価において重視される観点は、CASBEE評価におけるBEE値であり、それに加えて府市の重点項目の評価と審査委員による総合評価を加えて、最終的な受賞対象建築物を選出することとしている。

今年度の応募は大阪府13件、大阪市13件と、昨年度と同様に10件を超える多数の応募があり、さらに応募には多数のSランク建物が含まれているレベルの高い年であった。また、府市でタイプの異なる建物が最優秀となったことは、今年度の大きな特徴である。府では、意欲的に最先端技術を詰め込んだ大規模事務所ビルが選定された。一方、市ではコスト制約の中で上手に環境配慮技術を積み重ねた物販店舗が選定された。建物の性格が異なれば、環境配慮における力点や工夫が異なり、それぞれに価値と魅力が見出され、審査においては争点となる。今年度、期せずしてこのような組み合わせで知事賞・市長賞が選定されたことは、環境配慮への取り組み方が多様であることの証左である。建物の規模や用途を問わず、すべての建築物において、それぞれに適した環境配慮の取組が広がっていくことが期待される。

最後に、惜しくも選外になった建物にも、広く知られるべき価値ある取組があったことを記し、その成果に敬意を表す。

【大阪府知事賞】

大阪府

クボタグローバル技術研究所（堺市）

世界的メーカーの技術研究所として約34万m²の広大な敷地に建てられた、延べ面積約10万m²の大規模建物である。トップライトによる昼光利用やタスクアンビエント照明による照明用エネルギー消費の低減、卓越風を取り入れた自然換気と高効率設備システムによる空調用エネルギー消費の低減、さらに太陽光発電による創エネルギーにより、極めて高い水準の省エネルギー性能を達成している。大きな庇を持つ外観が特徴的であり、高い日射遮蔽性能を確保しつつ、屋外の憩いの場としての日陰空間を創出する独創的な試みもある。さらに、厨房排水の水処理と再利用や、建物屋根や外構で集水した雨水を水景施設で地下浸透するなど、水資源の有効利用と自然の水循環への配慮もあり、大阪府知事賞に相応しい環境建築である。

【住宅部門賞】

ライオンズ茨木総持寺ステーショングラン（茨木市）

長年空地であったJR総持寺駅前に立地する全279戸の集合住宅であり、駅から住宅街へと続く道沿いの緑地帯は新しい住宅地の景観を生み出すことに貢献している。ZEH-M Oriented 支援事業に採択され、全居室の開口部にLow-E複層ガラスの採用や省エネ性能の高い設備機器を採用し、一次エネルギー消費量30%以上削減を実現している。以上のように緑地帯を通して地域に貢献し、高い省エネルギー性能を実現した集合住宅である点を高く評価する。

【事務所部門賞】

(50音順)

貝塚市庁舎（貝塚市）

戦前からのコミュニティの中核的エリアに建ち、保存樹を継承し歩行者アプローチに緑のプロムナードを形成するなど周辺環境への配慮があり、建物内部も限られた予算の中で丁寧な作り込みが随所に見られる。執務室では南面西面のLow-e複層ガラスによる日射の抑制、外気導入にクールピットを用いた空調へ地中熱を活用する工夫、基準階高を抑えトップライトとエコシャフトを用いた自然採光・自然換気などの積み重ねで、優れた省エネルギー性能を実現した点が高く評価できる。

Panasonic XC KADOMA（パナソニック・クロスシー カドマ）（門真市）

オフィス専用部分の3階から上層に中庭を囲む吹き抜けを大きく設け、それがオフィス専用バルコニーに繋がり、共用部の外部化により自然を感じつつ合理的な執務室の実現だけでなく、自然換気を積極的

に取り入れた計画により、空調負荷の低減などの環境性能の向上を実現している。外壁には高断熱サンドイッチパネルを設置し遮熱・断熱性能を高め、また高効率熱源・高効率パッケージエアコンを採用し大幅なエネルギー消費削減を実現している。

【商業施設 その他部門賞】

近畿大学E館 (KDIX) (東大阪市)

元々の庭園を敷地としているので高木の保存と緑地を継承して新学部・情報学部の建築を行った。分節した勾配屋根下の一体空間を情報系らしい自由な研究・実験の場になることを企図した学生のオープン研究室としているのが特徴である。そこでは自然採光・通風・換気を視覚的にも体験できるよう偏光フィルムによる光のうつろいや光ケーブルによる空気のフローの知覚といった装置で入れ替わりの多い学生にも環境配慮を知る試みをしている。一体空間を中心にした新しい研究環境の建築計画と環境配慮のバランスが高度に実現していることを高く評価する。

【大阪市長賞】

大阪市

フレスポ阿波座 (大阪市西区)

かつて材木の立売が行われていた建設地(立売堀)の歴史的背景を踏まえ、活況な市場の空間を、木材を立て掛けて並べられた内装で再現するなど、積極的に木材を採用した計画は、単にエコを意識したものだけではなく、施設利用者に地域の歴史を伝承することも意識したものとなっている。

また、太陽光発電設備の設置、トップライトを利用した自然採光、自然換気による照明及び空調負荷の低減など、高価な設備を用いることなく、様々な省エネ技術を積み重ねることにより、高い環境性能を確保した建築計画となっている。

さらに、高効率空調やLED照明の採用を入居条件とするなど、テナントを巻き込んだ環境配慮に対する建築主の積極的な姿勢は、他の模範となり得る。

こうした取り組みは、商業施設においても創意工夫によりイニシャルコストを抑えたうえで高い環境性能を確保することが可能であることを示す良い実例となるものであり、大阪市長賞に相応しいと評価できる。

【住宅部門賞】

グランドメゾン 上町一丁目タワー (大阪市中央区)

敷地の2/3を占める緑豊かな公開空地は、隣接する公園との連続性のある外構計画や周辺地域の在来種の植生を選定するなど、地域の憩いの場としての機能を実現するとともに、周辺の街並みとの調和やこの地域で育まれてきた生態系への配慮を意識したものとなっている。

西側外壁に施された高さ約44mの壁面緑化は、都市のヒートアイランド現象の抑制に繋がるだけでなく、街並みに対する環境配慮としてインパクトのあるものとなっている。

また、全戸に高性能真空ペアガラス、家庭用燃料電池を設置するなど省エネ性能の高い住宅となっており、住宅部門賞に相応しいと評価できる。

【事務所部門賞】

ザ・バック株式会社本社 (大阪市東成区)

建物中央に設けたヴォイドを活かした自然換気システムは、気象条件に応じて効率的に自然通風を利用する仕組みとなっており、設計段階において技術的な検証を行うなど、創意工夫がなされた独創的な取組みとなっている。

その他にも外壁の高断熱化、高効率空調の採用など省エネ技術を積み重ねることにより、ZEB Readyを達成している。

また、熱負荷低減の観点から窓の面積を小さくしつつ、自然採光や室内外からの見え方にも配慮した計画となっている。

住宅、店舗などが高密度で集積する立地条件において、高い環境性能の確保と街並みとの調和を意識したデザインを両立しており、事務所部門賞に相応しいと評価できる。

クボタグローバル技術研究所

デザインと機能が融合したZEB建築

建築物概要

- 所在地：大阪府堺市堺区匠町1番11
- 建築主：株式会社クボタ
- 設計者：株式会社大林組一級建築士事務所
- 用途：事務所（研究所）
- 敷地面積：345,847㎡
- 建築面積：28,186㎡
- 延べ面積：94,404㎡
- 構造：鉄骨造
- 階数：地上7階
- CASBEE 評価：S ランク/BEE 値 3.2
- 重点評価：CO₂ 削減 4.8/みどり・ヒートアイランド 3.2/
建物の断熱性能 4.0/エネルギー削減 5.0/自然エネルギー直接利用 4.0



【立地、周辺環境】

堺の臨海地域に位置しており、目の前に大阪湾を見渡せる環境である。周辺の緑地帯として海とのふれあい広場や沿道緑化があり、海と緑に恵まれた立地である。

【総合的なコンセプト】

CROSS INNOVATION FILED クボタのあらゆる分野が交差し、イノベーションが生まれる場

約 34 万㎡の敷地に設計研究棟を中心とした計 85 棟の施設を計画した。各地に分散していた研究施設の一元集約化を行い、インフラ整備から各施設配置に至るまで都市計画規模で計画し、平面・断面的な動線合理化により研究開発効率の最大化を実現した。これまで研究人員数のキャパシティ、施設間の長距離移動等の制限を取り払った「制約のない研究施設」を創出した。

建物断面構成図

デザインと機能が融合した ZEB 建築

日本最大規模の ZEB 取得建築物
共用棟の設計一次エネルギー削減量：109%削減

Nearly ZEB 取得新築で床面積が最大*
※一般社団法人住宅性能評価・表示協会の ZEB 一級より (2023 年 10 月時点)

共用棟は事務所用途として『ZEB』、建物全体では事務所・工場の複合用途として Nearly ZEB の認証を取得している。

底による日射遮蔽と断熱強化により建物外皮の熱負荷抑制を図っている。さらに 3 種類のトップライトによる屋光利用、卓越風を利用した自然換気、敷地内の配管カルバートを利用したクール・ウォームピット等の自然エネルギーの活用も積極的に行っている。中央吹抜トップライトは 1 階まで太陽光を到達させるためすり鉢形状とし、中庭トップライトは換気経路としても利用し搬送動力の最適化を図る等、デザインと機能を融合させている。



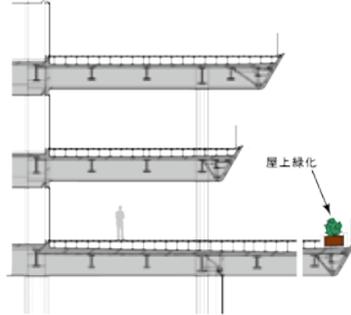
環境配慮事項とねらい

テラスの庇効果による日射遮蔽

有機的な曲面を持つ積層したテラスの外観デザインは、全世界で事業展開する建築主の唯一無二の「世界へ発信するフラッグシップ（大型客船）」を表現した。テラスには屋上緑化を設け、庇効果による日射遮蔽はもちろんのこと、テラスの日陰はワークスペースや憩いの場として活用している。



西側外観



有機的造形を助長する曲面 PC 外装



4階屋上テラスからの外観

トップライトによる昼光利用

昼光利用を積極的に採用している。建物中央にはすり鉢形状の吹抜を設けて1階まで自然光を届けている。タスクアンビエント照明を採用しつつ、天井トップライトを併用して自然光と人工光を適正に制御して省エネルギー化を実現している。



■天井トップライト

執務室の天井にリニアに配置したトップライトは直射日光による熱負荷を抑制するとともに昼光利用を実現

■中庭トップライト

トップライトによる自然光の取入と外気取入を兼ねるエコポイド

■中央吹抜トップライト

昼光シミュレーションを用いて、1階まで太陽光が到達するすり鉢形状の吹抜を採用

水資源の再利用

食料・水・環境分野で社会に貢献し続けることを使命としてきた建築主の企業理念に基づき、それを広く発信するための「水の森」を計画している。水の森では雨水を一次貯留して水資源を見える化したレインガーデン、厨房排水を高度な技術で再利用水に変えて水景設備に活用する等、水をテーマにしたランドスケープを実現している。



レインガーデンの仕組み



レインガーデン（満水時）

■レインガーデン

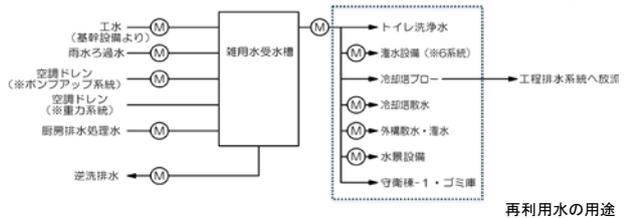
研究所アプローチに位置する前庭を「水の森」と名付け、クロマツによる沿岸地域特有のランドスケープにレインガーデンを計画した。建物屋根や外構で拾った雨水をレインガーデンに一時的に集水し、地下浸透させることによって土壌の浄化機能を有するとともに、周囲の温熱環境の改善に寄与している。

■雑用水として利用

水資源の有効活用のため雨水ろ過水、空調ドレン、厨房排水処理水を雑用水として再利用している。厨房排水を高度な技術を有する排水処理設備にて処理し、その再利用水を水盤の水景設備に利用することで水資源活用をアピールしている。



水景設備に再利用水を活用



再利用水の用途

ライオンズ茨木総持寺ステーショングラン

建物が駅力を高める未来を見据えた永續の住まい

建築物概要

- 所在地：大阪府茨木市庄1丁目347番1
- 建築主：株式会社大京 大阪支店
関電不動産開発株式会社
- 設計者：株式会社長谷工コーポレーション
大阪エンジニアリング事業部
一級建築士事務所
- 用途：共同住宅
- 敷地面積：6,664 m²
- 建築面積：2,492 m²
- 延べ面積：21,322 m²
- 構造：鉄筋コンクリート造
- 階数：地上14階
- CASBEE 評価：Sランク /BEE 値 3.0
- 重点評価：CO₂削減 4.2/みどり・ヒートアイランド 3.2/
建物の断熱性能 5.0/エネルギー削減 5.0/
自然エネルギー直接利用 3.0



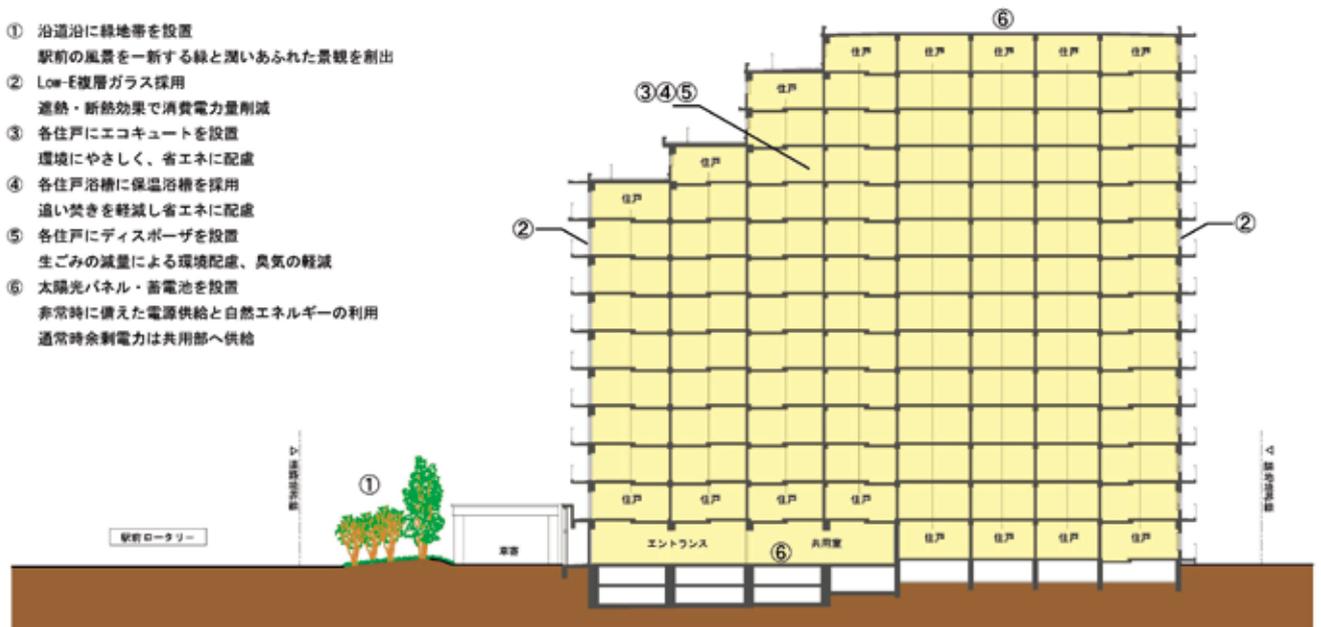
【立地、周辺環境】

本計画地は「茨木市5大プロジェクト」の一つとして2018年3月に開業したJR京都線「JR総持寺駅」から徒歩1分に位置し、通勤・通学・買物に便利な文教都市として発展が期待されるエリアである。

【総合的なコンセプト】

『駅前徒歩1分の絶対的稀少価値のこの地に、建物が駅力を高める未来を見据えた住まい『NEXT STANDARD』(進化景の住空間)をコンセプトに先進の快適生活を提供。CO₂排出量の削減や省エネルギーを追求した先進機能を導入し、高層ZEH-M支援事業に採択・省エネを実現する「ZEH-M Oriented」へ取り組み、また省エネ性能で格付けする第三者認証制度である「BELS」において最上級の5つ星を取得。外構に於いては、在来種・地域に由来する樹種を50%以上使用した植栽計画により駅前の風景を一新する緑と潤いにあふれた景観を創出し、住まう人のみならず街の資産となる風景を描き出すことで街づくりに寄与。

建物断面構成図



環境配慮事項とねらい

◆周辺環境への配慮

■敷地境界線の緑地帯

敷地境界沿には緑地帯を設け、在来種・地域に由来する樹種を中心に植樹、駅前の風景を一新する景観を創造。ここに住まう人のみならず、街の興奮となる風景を描き出す。



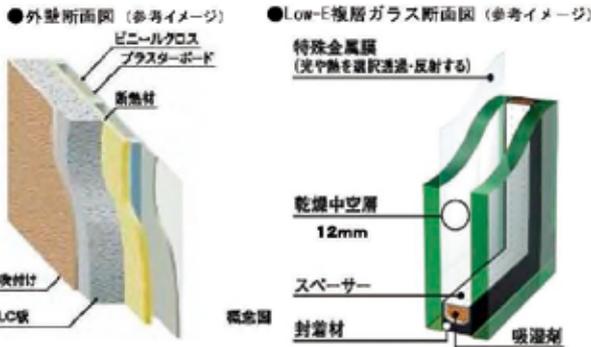
駅前ロータリー沿い(昼景) 駅前ロータリー沿い(夜景) 西側道路境沿い

◆専有部の配慮

■新熱等性能 (ZEH-M Oriented)

外部に面する躯体内部には、HFO品であるA種1Hの断熱材50mm又は、60mmを施工。

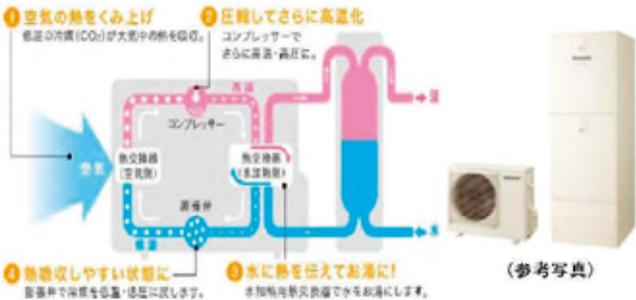
住戸の全ての開口部ガラスにはLow-E複層ガラスを採用、遮熱・断熱効果を高め節電に配慮。



■エコキュート

大気熱を利用してお湯を沸かす、地球環境への負担をおさえた自然冷媒(CO₂)ヒートポンプ給湯器「エコキュート」を全戸に採用。地球温暖化の原因CO₂の削減と、電力消費量削減に配慮。

●エコキュートのしくみ (出典 三菱電機)



(参考写真)

■多彩な省エネ・環境配慮設備仕様

- ・サーモバス 追い焚きを軽減し省エネに配慮
- ・節水型トイレ 水の使用量の抑制
- ・LED照明 長寿命で消費電力が少なく省エネに貢献
- ・ディスポーザ 生ごみ排出量の削減による環境配慮、臭気対策

保温用箱



参考イラスト

節水型トイレ(参考写真)



LED照明(参考写真)



ディスポーザ(参考写真)



◆共用部の配慮

■空気環境配慮仕様

エントランスラウンジに次亜塩素酸空気除菌脱臭機「ジアイーン」、微細子イオンフィルター搭載全熱交換機「ナノイー-X」を設置。空気環境に配慮し、健康的で心地よい空間を提供。



ジアイーン (参考写真)

ナノイー-X (参考写真)

■太陽光パネル・蓄電池

太陽光パネル・蓄電池設置により、災害時に1週間以上ライフラインを維持。平常時も共用部の一部に余剰電力を供給、省エネに貢献。居住者の更なる安心を追求。



太陽光パネル(参考)

■防災対策

1階共用部に防災倉庫を設置し、災害時の安全性の確保・生活環境維持の対応に配慮。ポータブル発電機・携帯充電機付ラジオリイトなどを保管。



防災倉庫(参考写真)

ポータブル発電機(参考写真)

携帯充電機付ラジオリイト(参考写真)

カマドスツール(参考写真)

■省エネ・省CO₂化への取り組み

- ・高層ZEH-M支援事業に採択
- ・一次エネルギー消費量を30%以上削減したZEH-M Oriented
- ・BELSによる第三者認証 最上級の5つ星を取得



貝塚市庁舎

建築物概要

- 所在地：貝塚市島中1丁目55-1、194-1
- 建築主：貝塚市
- 設計者：株式会社 大建設
- 用途：庁舎
- 敷地面積：16,084 m²
- 建築面積：2,684 m²
- 延べ面積：12,525 m²
- 構造：鉄骨造
- 階数：地上6階
- CASBEE 評価：S ランク/BEE 値 3.1
- 重点評価：CO₂削減 3.8/みどり・ヒートアイランド 3.5/
建物の断熱性能 4.3/エネルギー削減 3.6/
自然エネルギー直接利用 5.0



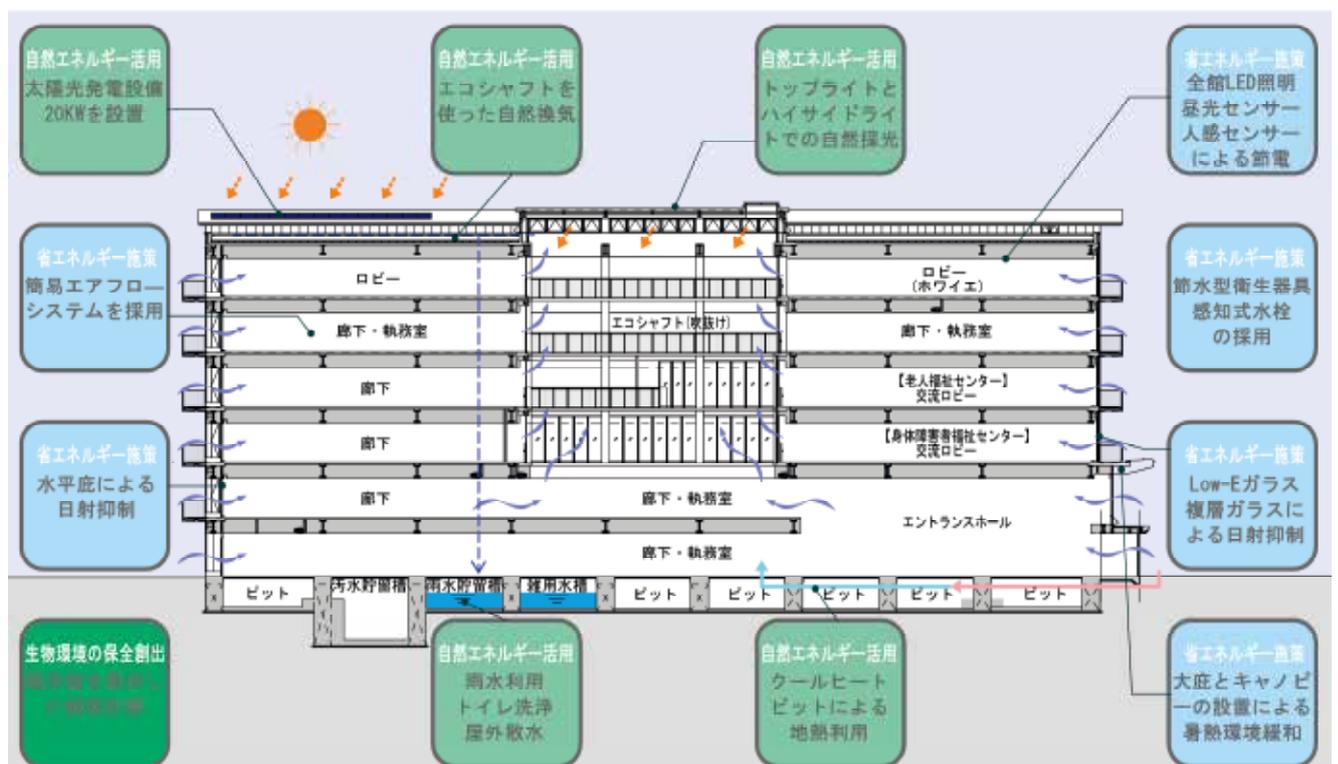
【立地、周辺環境】

計画地周辺は、海辺に近い田園平野地のため池が多く田畑へ水を供給する水路が張り巡らされた地域になる。宅地化が進んでいる地域ではあるが、従前の里地里山の風情が残っており平地で伸びやかな景観が特徴である。公共施設を集結し、市民の利便性を高める市の基本方針に対して、広がりある敷地の中心に大きく市民広場を設けることで市民が交流できる配置計画とした。

【総合的なコンセプト】

- エリア活性化の中心的役割を担う整備を行い、他の公共施設と構内道路を通じて連携できる配置計画とし地域活動の連携を適える計画とする。
- 平地で伸びやかな景観に合わせ、建物高さを抑えた庁舎の計画とすると共に、水平ラインを強調した大庇やキャノピーを使った外観構成とする。
- 周辺の宅地化による緑地の減少に対して、従前の里地里山の生態系の生物の生息場所や飛来場所としての緑地を確保する計画とする。
- 周辺建物との調和を図る基準階階高を抑えた計画とし、天井レスを採用して執務空間に広がりを持たせると共に設備の維持管理の省力化を図る。
- 自然エネルギーの活用を主軸に、省エネルギー施策やライフサイクルコスト縮減等、環境に配慮した庁舎を整備する。

建物断面構成図



環境配慮事項とねらい

エリア活性化の拠点となる市民広場の整備

■庁舎エントランスと一体的に利用する市民広場



市民広場に開いた庁舎ファサード

- 公共施設エリアの中心となる市民広場は庁舎エントランスに大きく面して設け内部外部合わせた施設連携の核として整備
- 一体利用を繋ぐ大庇やキャノピーにより日陰スペースをつくり出し、市民にとって居心地のよい緑豊かな広場を計画。
- 防災広場としての利用も見据えた広場は、地域イベントにも利用できる整備を行い市民活動の多角的なサポートを行う。



日陰をつくる大庇とキャノピー

水平ラインを強調した外観

■貝塚らしさを現わすカイツカイバキと地域性を象徴するボクハンツバキ

- 地域に親しまれる景観を形成する樹木として植樹された既存樹木のカイツカイバキを移植保存。
- 貝塚の歴史を示すシンボルツリーとして植樹されたボクハンツバキを植栽計画上の主要な保存樹として継承



ボクハンツバキ



カイツカイバキ



駅からの歩行者アプローチには緑のプロムナードを計画

省エネルギー施設を実現する取り組み



自然採光、自然換気を取り入れるエコシャフト

■自然エネルギーの活用

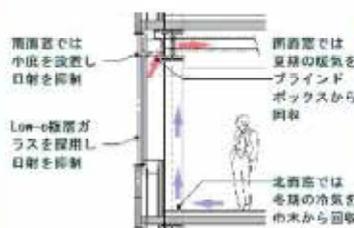
- 建物中央にエコシャフト(吹抜)を設け、トップライト、ハイサイドライトにより庁舎中央部分に自然光を取り入れ電力の省力化を図る。
- エコシャフト(吹抜)頂部に風向センサーにより自動で開閉する窓を設置し、中間期に各フロアの窓の開閉と合わせた自然換気を促進。
- 内装への貝塚市産の竹材活用によりCO₂排出量を削減すると共に地元材と自然素材のあたたかみによる親しみやすい庁舎を実現



議場、議会事務局、総合案内等に地域産竹材を採用

■ランニングコストを削減する省エネルギー施策

- 執務室はLow-eガラスと水平庇による日射抑制に加え、簡易エアフローシステムを採用し、窓際環境改善と空調の効果的運転を促進。



簡易エアフローシステム断面



天井レスの執務室

Panasonic XC KADOMA (パナソニック・クロスシー カドマ)

自然やまちに開かれた“ニューノーマル時代のワークプレイス”

建築物概要

- 所在地：大阪府門真市元町 22-6
- 建築主：パナソニック ホールディングス株式会社
- 設計者：株式会社竹中工務店
大阪一級建築士事務所
- 用途：事務所
- 敷地面積：7,754 m²
- 建築面積：4,753 m²
- 延べ面積：24,471 m²
- 構造：鉄骨造
- 階数：地上7階
- CASBEE 評価：S ランク/BEE 値 3.0
- 重点評価：CO₂ 削減 4.2/みどり・ヒートアイランド 3.7/
建物の断熱性能 3.4/エネルギー削減 5.0/
自然エネルギー直接利用 4.0



【立地、周辺環境】

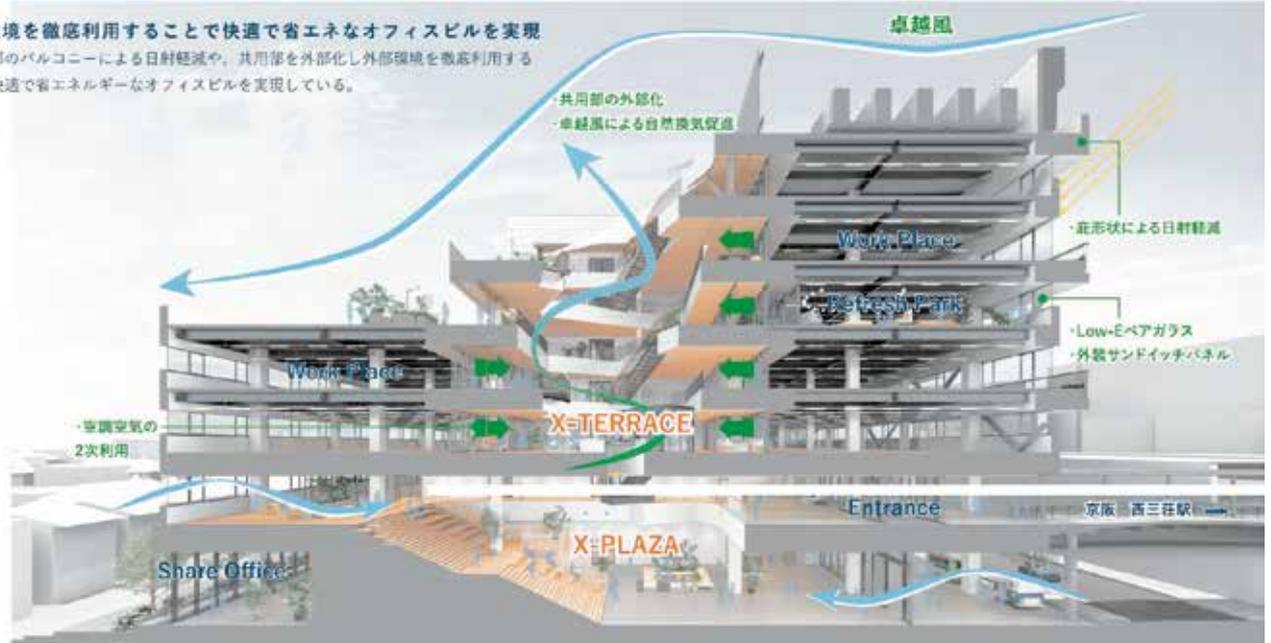
京阪電鉄西三荘駅の北側に位置し、パナソニック西門真（本社・工場敷地）の玄関口となる敷地。敷地南側に駅舎、西側にパナソニック社敷地、北・東側に住宅街が広がり、方位により状況の異なる環境に対して配慮しながらも統一された意匠を保つ計画とした。

【総合的なコンセプト】

「集まる」をデザインする」ことをコンセプトに1,2階に地域にも開放されたコミュニティギャラリー、3~7階スパイラルガーデン、オフィス専用バルコニーなど様々な空間をオフィスに取り込む計画を行なった。また信頼性・安全性という面からレジリエンスサポートの強化、将来的な建物運営の対応がしやすいよう室内空間については合理的な計画とし、環境性・省エネルギーに配慮した建物計画としている。

建物断面構成図

外部環境を徹底利用することで快速で省エネなオフィスビルを実現
外周部のバルコニーによる日射軽減や、共用部を外部化し外部環境を徹底利用する事で、快速で省エネルギーなオフィスビルを実現している。



環境配慮事項とねらい

知的創造、健康、快適性を高めるワークプレイス

■ABW(Active Based Workplace/Working)

集中思考できる場、カジュアルに交流できる場など多様な場所を計画し、ワーカーが自律的に最適な場所を選択して働くことができるオフィス空間。



オフィス内観パース

■共用部の外部化

建物中央部を縦に貫く外部空間に配置されたテラススペースやオフィス専用バルコニーなど外部化された共用部を介して社員同士の交流を促す空間構成。



外部テラス

省エネルギー性を高めた外装・設備計画

■高い外皮性能を有するファサード計画

外壁はサンドイッチパネルにより建物の外皮性能を高めている。開口部は日射熱負荷が多い西面に Low-E ペアガラス及びバルコニー部の水平庇により日射遮蔽性能を高めており、建物の外皮性能を示す BPI は 0.89 である。

■照明計画

オフィスはタスクアンビエント方式とし、アンビエント照度を 500lx(机上面)の設定としている。また、オフィス外周部には昼光センサを配置し、窓際採光により近傍の照明器具を調光し、省エネルギーに配慮する計画としている。

■空調・換気計画

高効率パッケージエアコンを採用し、インテリア部は天井カセット型の室内機を選定することで搬送動力を低減している。1,2階コミュニティスペースは大人数の収容も想定される大空間となるため、CO₂濃度に応じた換気風量制御により、空調負荷を低減している。

共用部を外部化しているだけでなく、スパイラルガーデンへの空調空気の 2 次利用や各階は窓手動開放により自然換気可能な計画としており、中間期の空調・換気エネルギーを削減している。



オフィス内観写真



コミュニティスペース内観写真

建物のレジリエンス性能を高める計画

■災害時のBCP計画

災害時に非常用発電機による重要機能室、重要設備への電源供給や緊急遮断弁による受水槽内上水の確保、緊急排水槽設置による断下水対応を計画している。

■浸水対策

防災センターや電気室などの重要機能室を 2 階に配置することや、1 階に設置される重要機器を浸水想定ライン以上へ配置することで建物浸水時でも設備機能の損傷を防ぐ計画としている。

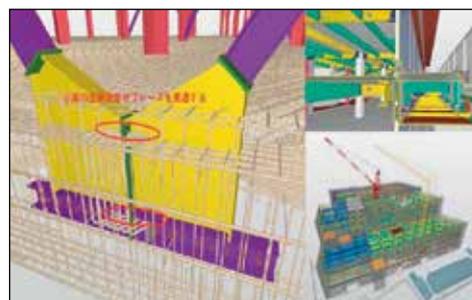
環境性能

環境認証として CASBEE(建築)S ランク(BEE=3.0)を取得し、省エネルギー性能 (BLES 認証) は、ZEB-Oriented(BEI=0.57)となっている。その他にも LEED 認証や WELL 認証および CASBEE-WO の取得も予定している。

施工計画におけるデジタル化の推進

■BIMによる干渉確認と合意形成

設備配管モデルと鉄骨モデルを BIM にて干渉確認を行い、配管ルートの見直しや各種設備機器のメンテナンス空間確保の確認、鉄骨スリーブの位置・補強について、設計・現場・鉄骨製作者で情報共有しながら検討を進めた。



BIMによる整合性チェック

近畿大学E館 (KDIX)

デジタル時代における新しい教育環境の創出

建築物概要

- 所在地：大阪府東大阪市新上小阪 5-86
- 建築主：学校法人近畿大学
- 設計者：株式会社 NTT ファシリティーズ
一級建築士事務所
五洋建設株式会社大阪支店
一級建築士事務所
- 用途：学校（大学）
- 敷地面積：7,439 m²（仮想敷地設定）
- 建築面積：3,306 m²
- 延べ面積：8,702 m²
- 構造：鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造
- 階数：地上4階
- CASBEE 評価：S ランク/BEE 値 3.3
- 重点評価：CO₂ 削減 3.9/みどり・ヒートアイランド 4.0/
建物の断熱性能 4.5/エネルギー削減 3.9/
自然エネルギー直接利用 5.0



【立地、周辺環境】

都市の中心にあり2万人を超える学生が集うキャンパスにある情報学部のための学部棟。元々は広大な緑地であり、キャンパスの北エッジを形成している。用途地域が住居地域であり、高密度に人が行き交い賑わいを形成している街並みである。

【総合的なコンセプト】

近畿大学 15 番目の学部「情報学部」のための建築。社会の諸課題が多様化・複雑化する中でリアル／デジタル／研究室の垣根を超えるよう多様な情報系学術を学ぶ学生と教員の日々の活動を混在させることで新結合を生み出す拠点づくりを掲げた。デバイス携帯によりいつでもどこでも繋がることのできる時代において時間と空間を共にする教育環境の意義を再定義するため、様々な活動・時間軸を持つ人の心地よい同在を実現する「空間」のデザインに取り組んだ。東西 95m の長さを持つこの一体空間には緑量豊かに立ち上がる3つのテラスが挿入され光・風・緑など自然要素を内部空間へ取り込むことで壁のない大空間を心地よいスケールに柔らかに分節している。

建物断面構成図



環境配慮事項とねらい

一体空間 × 自然 研究室の垣根を取り払ったプラットフォームを創出



大屋根下の一体研究室空間

一体研究室空間のダイアグラム



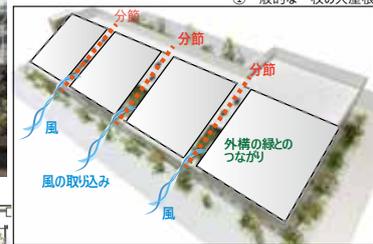
緩勾配屋根下空間



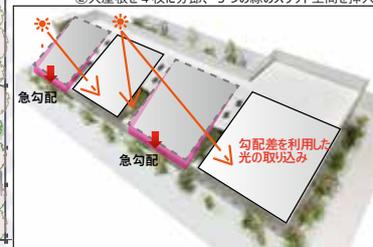
2層吹き抜けの一体空間に挿入される屋上テラス



①一般的な一枚の大屋根



②大屋根を4枚に分節、3つの緑のスリット空間を挿入



③4枚の内、2枚の勾配に変化を持たせる

屋上緑化テラスと勾配屋根

- ・3つのテラスにより採光・通風の室内への取り込み
- ・北側に面した大空間に明るく様々な場所性を創出
- ・どこからでも緑が眺められる平面計画

一体空間全体での環境施策

- ・勾配屋根の一体空間形状を利用した重力換気
- ・タスク空調による省エネの取組み
- ・逆梁を利用した床下空調機設置

既存緑地の保存、緑の連続

- ・最大限の緑地を残した配棟計画
- ・全高木の移植、植栽適正を考慮した再移植
- ・樹冠の連続、2階レベルでの緑の連続



自然の機微のビジュアライズ

採光や通風の取り組みを視覚化

- ・ハイサイドライトの光を木粒子充填パネルを透過させることにより木漏れ日を室内に出現
- ・重力換気の微風による光ケーブル照明のゆらぎ



極細の光ケーブルの束の照明は微風を受けてゆらぐ

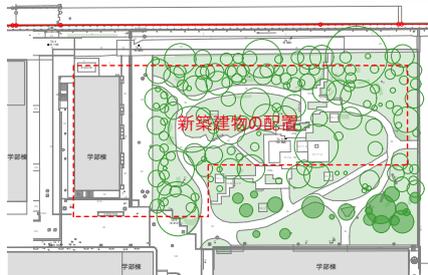


採光は色に還元されて室内に彩る



色と周辺の風景がガラスに映り込む

既存緑地の保存



高木移植前の庭園



残置高木と再移植高木



木陰の創出、オンライン授業などでの空間活用



既存樹木(手前)を極力保存した建物配置

フレスポ阿波座

文化・環境・健康でつながるみんなの居場所

建築物概要

- 所在地：大阪市西区立売堀 6 丁目
- 建築主：大和リース株式会社
- 設計者：株式会社竹中工務店
大阪一級建築士事務所
- 用途：物販店舗
- 敷地面積：6,115 m²
- 建築面積：5,087 m²
- 延べ面積：9,625 m²
- 構造：鉄骨造
- 階数：地上 3 階
- CASBEE 評価：S ランク/BEE 値 3.1
- 重点評価：CO₂ 削減 5.0/みどり・ヒートアイランド 4.0/
建物の断熱性能 5.0/エネルギー削減 5.0/
自然エネルギー直接利用 4.0



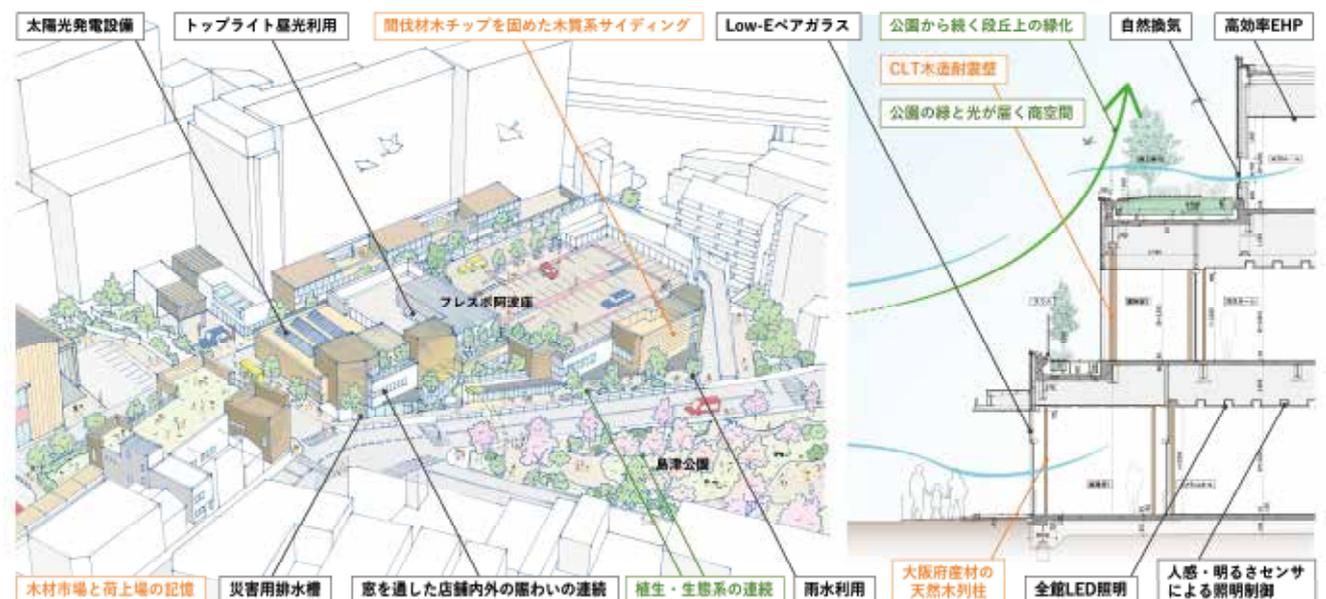
【立地、周辺環境】

フレスポ阿波座は、近年若いファミリー世代が増加している大阪市西区立売堀に計画した近隣型ショッピングセンターである。かつて敷地周辺は縦横に運河が流れ、物流・商い・人を運ぶ拠点として栄えた。木材を立て掛けて売り捌く木材市場の様子が地名「立売堀」の語源となった。地域の中心となる島津公園に隣接する 4 街区を一体的にエリア計画した。

【総合的なコンセプト】

- 市場の記憶を継承し、文化と賑わいを育むライフスタイルコア —
- ・「立売堀」の場所の文化を未来へつなぐ：「商いの箱が積み重なった立売堀の荷上場」をテーマに、流れや木の箱、木の建ち並ぶイメージを外観デザイン、外構やインテリアに取り入れ、街の記憶を見える建築として立ち現せた。近隣住民の毎日の生活を支える、現代の市場である。
- ・街並みと調和する環境配慮型商業施設：大きなボリュームのファサードを店舗毎に分節することで、周囲の街並みとスケール感を調和させ、商いの店が積み上がる市場の賑わいを街に表出した。箱の上への緑の連続、箱の間からの自然採光や自然換気塔に加え、高効率な設備システムを店舗内に施した。
- ・自然環境を引込んだ健康な商空間：眼前に広がる島津公園に向けて設けたテラスや、自然換気も行えるトップライト、共用部の積極的な緑化により、公園から川へと続く、光と緑の道を内部まで導いた。照明計画と自然光、内部の緑と公園の緑がつながることで、地域の利用者にとって健やかな居場所を創出した。

建物断面構成図



環境配慮事項とねらい

■まちの文化を継承する、生活の中心となる場

<「立売堀」の場所の文化を未来へつなぐ>

- ・かつて運河・木材市場の物流拠点として栄え、地名「立売堀」の語源でもある木を立てて売り捌いた市場の活気を、河内産材の列柱をはじめ、木の箱の外装、CLT耐震壁や仕上材に木を積極的に採用し、まちの文化を継承した。外装で20tのCO2固定をする等、国産材による環境負荷低減を図っている。

<BCP対応>

- ・14時間運転可能な非常用発電機・オイルタンクを設置し、コンセント・照明・水を確保する。
- ・1階キュービクルは内水氾濫時の浸水を考慮し、1FL(TP +0.5m)以上の高さに設置。
- ・災害時排水槽を設置し、受水槽には非常用水栓を設置。

■街並みと調和する環境配慮型商業施設

<近隣への配慮>

- ・比較的大きな壁面を、店舗ごとの木の箱に分割してスケール感を抑え、周辺の街並みと調和させた。
- ・正面の公園側はまちの賑わいを、後方の住宅側は静けさに配慮した計画としている。
- ・正面は大きな庇を付け、広い自転車置場を設けて利便性を高めた。

<建物外皮の熱負荷抑制>

- ・Low-Eペアガラス及び断熱強化による熱負荷低減を図っている。

<照明設備>

- ・後方、トイレの照明には人感センサー、ホール・共用部の外光が入るエリアには明るさセンサーを採用。
- ・共用部はダウンライトにより必要な明るさを確保し、入隅にライン照明を配置することで、照度を抑えつつ明るさを感じる空間とした。テナントと協力し、店舗内でもLED照明等の省エネ機器を使用。

<空調設備>

- ・高効率タイプのビルマルチエアコンを採用。テナント入居条件でも高効率機器の使用を必至とし、環境性能を高めている。

<雨水利用>

- ・屋上雨水の一部を貯留し、1階外構の灌水・散水に利用している。

<太陽光発電設備>

- ・3階および屋根上にシステム容量65.7kWの太陽光パネルを設置。

<CASBEE認証>

- ・省エネ配慮技術の取り組みによりSランク認証を取得している。

■自然環境を引き込んだ健康な商空間

<緑化>

- ・外構、2階テラス、3階屋上部を段丘上に積極的に緑化。周辺環境と同樹種を選定、緑を連続させ、地域の補生と生態系を守りながら、利用者にとって健やかな居場所を創出した。

<自然環境を引込む>

- ・窓を多くとった商業施設とすることで、排煙や避難の安全性を確保するとともに、外と内の賑わいを連続させる建物とした。
- ・自然換気も行えるトップライトによる昼光利用。
- ・30CMH/人の新鮮外気導入による安心して利用できる商空間を創出した。



賑わいと公園から続く光と緑を取り込む、景観と調和するまちなみの形成



正面玄関夜景



2階テラス玄関

木の耐震壁の説明板



こもれび広場

共用通路



クリニックモールのトップライト

ESCホールのトップライト

グランドメゾン 上町一丁目タワー

緑豊かな地域の憩いの場を形成するタワー型レジデンス

建築物概要

- 所在地：大阪市中央区上町1丁目
- 建築主：積水ハウス株式会社
- 設計者：株式会社 IAO 竹田設計
- 用途：共同住宅

- 敷地面積：3,328 m²
- 建築面積：1,026 m²
- 延べ面積：26,506 m²
- 構造：鉄筋コンクリート造 一部 鉄骨造
- 階数：地上36階
- CASBEE 評価：S ランク/BEE 値 3.3
- 重点評価：CO₂ 削減 4.0/みどり・ヒートアイランド 5.0/
建物の断熱性能 5.0/エネルギー削減 5.0/
自然エネルギー直接利用 2.0



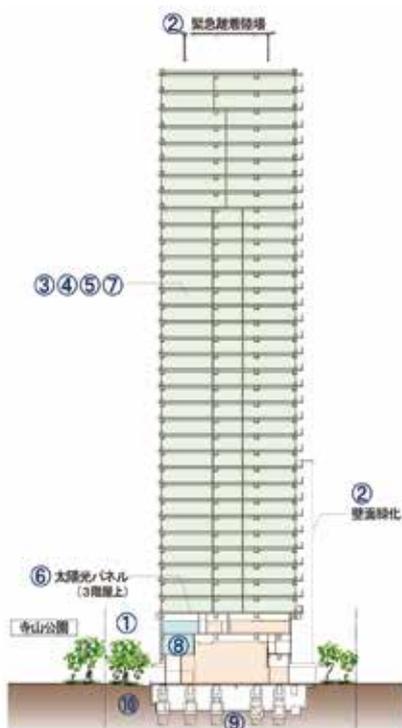
【立地、周辺環境】

敷地は大阪市中央区上町1丁目、ここは上町台地のほぼ頂部に位置した土地である。周囲には大阪城公園や難波宮跡公園をはじめ大小様々な公園が点在しており、大阪市内でも緑が豊富なエリア。また、大阪女学院や城星学園等の教育施設もあり、文教的な雰囲気も持ち合わせた落ち着いた街並みである。

【総合的なコンセプト】

約3,300 m²のゆとりある敷地の約2/3を緑豊かな空地として整備し、建物北側には大規模な公開空地を配したタワー型の共同住宅の計画。公開空地へのアクセスとして東隣地の公園からの出入口をはじめ多数の出入口を確保し、地域の人々が自由に往来出来、公園と一体的で地域の憩いの場となるような公開空地を目指した。公開空地には地域の在来種の植生を選定することでこの地域に育まれてきた生態系に配慮し、隣地の公園を始めとした近隣の公園や街路樹、更には大阪城公園を中心とした生態系ネットワークの形成の一助となることを目指した。建物西面には高さ約44mの壁面緑化を計画し、平面的だけでなく立体的な緑地空間を創出することでヒートアイランド現象の抑制に配慮した。

建物断面構成図



- ① 緑豊かで地域の人々が利用しやすい大規模な公開空地を配備
この地域の在来種である緑豊かな公開空地を確保。公開空地と東隣地の公園が直接往来出来る出入口を設置することで、公園と一体的な利用を想定した地域の憩いの場となる公開空地を創出。
- ② 壁面緑化（西面）・屋上緑化（緊急離着陸場）
西面に高さ約44mの壁面緑化、緊急離着陸場にも緑化を行うことで、都市の中に水平・垂直な立体的な緑地空間を提供し、ヒートアイランド現象の抑制にも貢献。
- ③ 高断熱・高効率設備を搭載し、ZEH-M Oriented を取得
Low-E複層ガラスの約3倍の断熱性能を発揮する高性能真空ペアガラスを全住戸開口部に採用し、各住戸のスラブ裏全面へ断熱を施すなど、北海道のZEH基準を超える高い断熱性能を実現。更には高効率型エアコン等の環境配慮に優れた先進設備を導入することでZEH-M Orientedを取得。
- ④ 全住戸（188戸）に次世代家庭用燃料電池を設置
高いエネルギー利用率の次世代家庭用燃料電池により定格発電を行うとともに、排熱を利用した給湯・湯張り等により、大幅なCO2削減効果を実現。
- ⑤ 高効率照明（LED）の採用
照明はLED照明を全面的に採用し、省エネとメンテナンス効率を向上。
- ⑥ 太陽光発電パネルを設置（3階）
太陽光発電パネルの設置により再生可能エネルギーを導入し、創り出した電力を共用部にて有効利用。
- ⑦ 非常用自家発電機（2階）を設置、また防災倉庫を分散配置し、超高層建物での非常時の利便性向上
非常用発電機を設置し、全フロアに防災倉庫を配置することで、超高層建物におけるレジリエンス性能の強化。
- ⑧ 電気室を2階に設置
洪水等の災害対策として、電気室は2階に設置。
- ⑨ 基礎免震構造の採用
地震エネルギーが直接建物に伝わりにくい免震構造を採用。地震時の人命保護・家具等資産の被害を軽減。
- ⑩ 消防用水槽・ディスポーザー処理槽設置
防災対策としての地域の有事でも利用できる貯水槽の整備、生ごみ減量を実現。

環境配慮事項とねらい

豊かな緑の環境の創出（地域生態系ネットワークの形成を助長）

隣接する公園と一体的で地域の憩いの場となる公開空地の整備



- ・建物北側に大規模な公開空地を確保し、東側公園とつながる出入口を創出。公開空地への多数の出入口を設置することで政策の自由度の高い公開空地を実現。

- ・地域の在来種の植生を選定し、緑豊かな公開空地を創出することで、この地域で育まれてきた生態系へ配慮。寺山公園を始めとした近傍の公園や街路樹、更には大阪城公園を中心とした生態系ネットワークの形成を助長。



- ・公開空地を囲む植込みは豊臣秀吉時代の大阪城の石垣と同じ技法（野面積み）で構成し、地域性と歴史性に配慮。



北側の緑豊かな公開空地と高さ約44mの壁面緑化



大阪城の石垣を参考にデザインした北側出入口



政策の自由度が高い緑豊かな公開空地



訪れるシジュウカラと設置している巣箱

環境配慮・向上への取り組み

高断熱・高効率設備を搭載し、ZEH-M Oriented を取得
外皮の断熱性能の大幅な向上と、高効率な設備・システムの導入により、室内環境の質を維持しつつ大幅な省エネを実現（省エネ基準比 20%以上）。ZEH-M Oriented を取得。

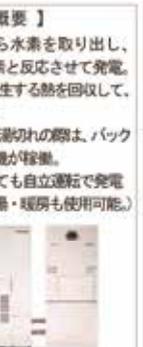


全ての住戸開口部に高性能真空ペアガラスを採用。
高い耐風圧力・断熱性により、超高層マンションでありながら大開口のコーナースッシェを実現。



次世代家庭用燃料電池を全住戸（188戸）に設置
「省エネ」だけでなく「創エネ」設備を設けることで、普段の暮らしがそのまま環境保全につながり、快適で経済的な環境配慮に優れた全住戸が自家発電する次世代超高層住宅を実現。

- ・世界最高の発電効率 55%の次世代家庭用燃料電池を採用。
- ・停電になっても自立運転で発電を継続。（最大約 700W）
- ・発電した電気は家庭で使用し、余った電気は充電。省エネ、光熱費削減に貢献。
- ・発電所での排熱、送電ロスが無いため、1次エネルギー利用率は従来システムの約 40%から約 87%となり、約 50%のCO2排出削減を実現。



太陽光発電システム設置
3階屋上に太陽光発電システムを設置。再生可能エネルギーを共用部の電源として有効利用。

子どもを基準に考えた住戸の空気環境配慮仕様
5つの化学物質 厚生労働省指針値 1/2 以下を目指す仕様（入居時）
居室天井ホルムアルデヒド 吸着ボード使用



ザ・パック株式会社 本社

街の新陳代謝と寄り添う住宅地のオフィス

建築物概要

- 所在地：大阪市東成区東小橋2丁目
- 建築主：ザ・パック株式会社
- 設計者：株式会社竹中工務店大阪一級建築士事務所
- 用途：事務所・工場

- 敷地面積：1,690㎡
- 建築面積：882㎡
- 延べ面積：5,026㎡
- 構造：鉄骨造
- 階数：地上7階
- CASBEE 評価：S ランク/BEE 値 3.0
- 重点評価：CO₂削減 5.0/みどり・ヒートアイランド 3.0/
建物の断熱性能 5.0/エネルギー削減 5.0/
自然エネルギー直接利用 4.0



【立地、周辺環境】

東成区の鶴橋駅からほど近い立地の敷地。駅から敷地にかけて住宅、商店が高密度で密集しており、周囲への音・光・視線・給排気ルート等への配慮が必要な敷地である。準工業地域に指定された当敷地周辺では、戸建ての小さな倉庫や住居が取り壊されマンションへと建替わる最中にある。

【総合的なコンセプト】

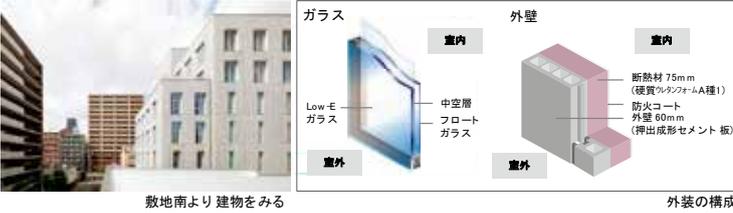
総合パッケージメーカーの本社建替計画である。建築主は創業地での事業継続の想いから、約50年間建増しを繰り返してきた建屋を取り壊し、本社オフィスを一新することにした。「建物が高密度に集積する周辺環境の中、大きなオフィスをいかに挿入するか」、「脱炭素・省エネ・ウェルネスといった社会的課題への応答」が本計画の重要なテーマとなった。建物形状は、周辺のスケールと調和するようボリュームを分節することで圧迫感の低減を図り、プライバシーに配慮した開口のディテールやテラスは同時に高い外壁性能を確保する一助としても機能している。さらに脱炭素社会に向けた高効率な省エネ技術を盛り込むことで高い環境性能を確保しつつ、従業員のウェルネスにも配慮することで、活き活きとしたイノベーション溢れる場が生まれることを期待している。

建物断面構成図



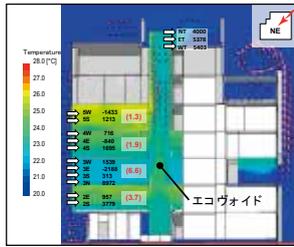
環境配慮事項とねらい

環境配慮技術(再生可能エネルギー利用・省エネ・省資源)



高断熱外装と周辺環境との関係をバランスさせた外装計画

- ・ 熱負荷と住宅密集地での近隣との見合いに配慮した窓形式
- ・ 窓際のアクティビティも配慮した内部のテーパー壁
- ・ Low-E複層ガラスと高断熱外装(断熱材)の採用
- ・ 熱負荷低減によって中間期には空調機に頼らないで過ごすことが可能
- ・ ホリの深い窓とすることでガラス面への直達日射を低減



回遊する執務室形状と建物中央のヴォイドを活かした自然通風

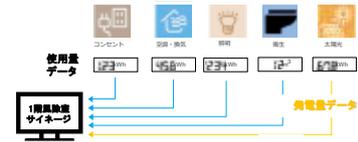
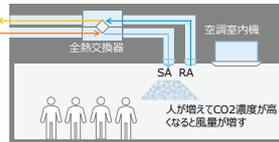
- ・ 最低限の吹抜と外壁開口で成立させた重力換気による自然換気システム
- ・ 自然換気での執務室の2回(以上)換気を実現
- ・ 風向に限らず外部風を受けられる全周が等価なファサード
- ・ 気象条件により自動開閉するトップライト
- ・ 自然換気の好条件を知らせるお知らせランプで従業員への環境啓発
- ・ 設計期中のシミュレーションより自然通風量を確認
- ・ 自然通風のゆらぎによる執務者の快適性向上

各種省エネ技術の採用

- ・ 在室検知と明るさ検知を併用した執務室の照明センサー制御



- ・ 人員の増減(CO2濃度)に追従した全熱交換機の風量制御
- ・ エネマネシステムによる消費エネルギー分析



ワークスペースの快適性向上

街の空気を感じながら快適に働けるワークスペース

- ・ 見合いを軽減するホリの深い窓とインナーテラス
- ・ 従業員の環境意識を向上させる、手動によるローコスト自然換気
- ・ 大阪府や生駒山の自生種を含む多種多様な植生の緑化計画
- ・ 屋光利用を可能とするトップライトや中庭を配置

気積を最大化した有効率の高い平面・断面計画

- ・ 階高を3.8mに抑えながら高さを最大に活かす直天井の採用
- ・ 2つの階段をまとめたX階段を採用とすることで従業員の上下移動を促進
- ・ 廊下を最小限とした執務の一体感を高める可変性のある平面プラン
- ・ 空間の広さを際立たせるシームレスなライン型照明器具配置



カフェテリアから北側のテラスを見る



5階執務室からテラスを見る

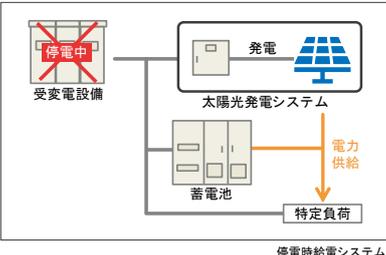


6階北テラス

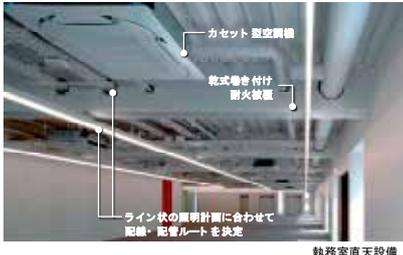


高い安全性(BCP)と更新性

- ・ 停電時の事業継続に配慮して蓄電池を設置し、太陽光発電システムと連携を取ったシステムを計画した
- ・ 執務室の直天仕様は開放感を演出。設備機器の更新性を踏まえた見える化でメンテナンス性を高めている



停電時給電システム



執務室直天設備



一次エネルギー消費量(GJ/年)の採用技術による低減効果

令和4年度おおさか環境にやさしい建築賞

- 大阪府知事賞** ■ 枚方市総合文化芸術センター
所在地：枚方市新町2丁目
建築主：枚方市
設計者：株式会社日建設計
- 住宅部門賞** ■ パークナード・グラン吹田SST
所在地：吹田市岸部中5丁目
建築主：パナソニック ホームズ株式会社 都市開発支社
JR西日本不動産開発株式会社
設計者：株式会社IAO 竹田設計 大阪第二事務所
- 事務所部門賞** ■ 柏原市庁舎
所在地：柏原市安堂町
建築主：柏原市
設計者：株式会社山下設計
(中川・関電工・山下共同企業体)
- 商業施設
その他部門賞** ■ セブンパーク天美
所在地：松原市天美東3丁目
建築主：芙蓉総合リース株式会社
設計者：株式会社セブン&アイ・クリエイトリック
- 福岡運輸株式会社 大阪茨木配送センター
所在地：茨木市彩都はなだ2丁目
建築主：株式会社福岡運輸ホールディングス
設計者：株式会社フジタ大阪支店一級建築士事務所
- 大阪市長賞** ■ 大阪梅田ツインタワーズ・サウス
所在地：大阪市北区梅田1丁目
建築主：阪神電気鉄道株式会社
阪急電鉄株式会社
設計者：株式会社竹中工務店大阪一級建築士事務所
- 住宅部門賞** ■ グランドメゾン新梅田タワー THE CLUB RESIDENCE
所在地：大阪市北区大淀南2丁目
建築主：積水ハウス株式会社
三菱地所レジデンス株式会社
東急不動産株式会社
東京建物株式会社
エヌ・ティ・ティ都市開発株式会社
株式会社アサヒプロパティス
設計者：株式会社竹中工務店大阪一級建築士事務所
- 事務所部門賞** ■ 大阪テクノセンター
所在地：大阪市住之江区南港北1丁目
建築主：株式会社 鴻池組
設計者：株式会社 鴻池組大阪本店一級建築士事務所
- 本町サンケイビル
所在地：大阪市中央区本町4丁目、南本町4丁目
建築主：株式会社 サンケイビル
設計者：株式会社竹中工務店大阪一級建築士事務所
- 商業施設
その他部門賞** ■ OMO7大阪 by 星野リゾート
所在地：大阪市浪速区恵美須西3丁目
建築主：新今宮開発特定目的会社
設計者：株式会社 日本設計

・その他の受賞作品については、下記府ホームページをご覧ください。

環境にやさしい建築賞 バンフレット

検索

http://www.pref.osaka.lg.jp/kenshi_shinsa/casbee_index_html/setubi_osb_osb_estab.html



過去の受賞建築物が掲載されているホームページ

令和3年度おおさか環境にやさしい建築賞

- 大阪府知事賞** ■ Innovation Garden OSAKA Center
所在地：高槻市桜町
建築主：コニカミノルタ株式会社
設計者：株式会社竹中工務店大阪一級建築士事務所
- 大阪市長賞** ■ 藤田美術館
所在地：大阪市都島区網島町
建築主：公益財団法人藤田美術館
設計者：大成建設株式会社関西支店一級建築士事務所

令和2年度おおさか環境にやさしい建築賞

- 大阪府知事賞** ■ 東大阪市文化創造館
所在地：東大阪市御厨南2丁目
建築主：東大阪市
PFI東大阪市文化創造館株式会社
設計者：東大阪文化創造館設計・音響コンサル共同企業体
株式会社佐藤総合計画関西オフィス
株式会社大林組大阪本店一級建築士事務所
株式会社永田音響設計
- 大阪市長賞** ■ 株式会社ヒラカワ本社
所在地：大阪市北区大淀北1丁目
建築主：株式会社ヒラカワ
設計者：関西ビジネスインフォメーション株式会社
KBI・設計事務所

令和元年度おおさか環境にやさしい建築賞

- 大阪府知事賞** ■ 国立循環器病研究センター
所在地：吹田市岸部新町
建築主：国立研究開発法人国立循環器病研究センター
設計者：株式会社佐藤総合計画
株式会社竹中工務店大阪一級建築士事務所
株式会社日本設計
- 大阪市長賞** ■ 読売テレビ新社屋
所在地：大阪市中央区城見1丁目
建築主：読売テレビ放送株式会社
設計者：株式会社竹中工務店大阪一級建築士事務所

平成30年度おおさか環境にやさしい建築賞

- 大阪府知事賞** ■ 和泉市立総合医療センター
所在地：和泉市和気町4丁目
建築主：和泉市
設計者：清水建設株式会社関西支店一級建築士事務所
- 大阪市長賞** ■ ケイ・オブティコムビル
所在地：大阪市中央区城見2丁目
建築主：関電不動産開発株式会社
設計者：株式会社竹中工務店大阪一級建築士事務所

平成29年度おおさか環境にやさしい建築賞

- 大阪府知事賞** ■ メディカルりんくうポート
所在地：泉佐野市りんくう往来南
建築主：株式会社りんくうメディカルマネジメント
設計者：株式会社日建設計
- 大阪市長賞** ■ 大阪工業大学梅田キャンパスOIT 梅田タワー
所在地：大阪市北区茶屋町
建築主：学校法人常翔学園
設計者：服部・石本・安井設計監理共同企業体

平成28年度おおさか環境にやさしい建築賞

- 大阪府知事賞** ■ ダイキン工業テクノロジー・イノベーションセンター
所在地：摂津市西一津屋
建築主：ダイキン工業株式会社
設計者：日建設計・NTT ファシリティアーズ設計共同企業体
- 大阪市長賞** ■ 関西電力病院
所在地：大阪市福島区福島2丁目
建築主：関西電力株式会社
設計者：株式会社日建設計

平成27年度おおさか環境にやさしい建築賞

- 大阪府知事賞** ■ ベルランド総合病院
所在地：堺市中区東山
建築主：社会医療法人 生長会
設計者：清水建設株式会社関西支店一級建築士事務所
- 大阪市長賞** ■ YANMAR FLYING-Y BUILDING
所在地：大阪市北区茶屋町
建築主：セイレイ興産株式会社
設計者：株式会社日建設計

建築物の環境配慮に関連する制度紹介

自治体のラベル制度 ※床面積の合計 2,000m² 以上の新築、増築、改築しようとする建築物が対象



(平成30年4月1日以降に環境配慮制度に関する届出がなされる建築物から適用されるラベル)

建築物環境性能表示制度

分譲マンションや賃貸オフィスなどの募集広告及び工事現場に建物の環境性能を表示する制度です。快適で環境に配慮した建築物が市場で評価される仕組みや広く府民の目にとまることで、建築主の意識を高める仕組みづくりを目指しています。CASBEE評価と重点項目であるCO₂削減、みどり・ヒートアイランド対策、建物の断熱性、エネルギー削減について5段階で表示しております。また、平成30年度からは太陽光発電その他再生エネルギーの利用に加え、自然エネルギーの直接利用についても追加されています。

国のラベル制度 ※すべての新築建築物が対象



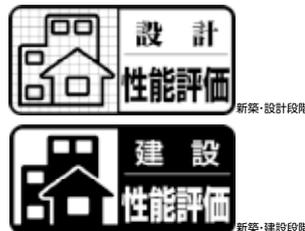
(令和6年4月1日以降に建築基準法の確認申請をした建築物から適用されるラベル)

建築物省エネ性能表示制度

販売・賃貸事業者が建築物の省エネ性能を広告等に表示することで、消費者等が建築物を購入・賃借する際に、省エネ性能の把握や比較ができるようにする制度です。住まいやオフィス等の買い手・借り手の省エネ性能への関心を高めることで、省エネ性能が高い住宅・建築物の供給が促進される市場づくりを目的としています。2024年4月以降、事業者は新築建築物の販売・賃貸の広告等において、省エネ性能の表示ラベルを表示することが求められます(努力義務)。

低炭素建築物 認定制度

「都市の低炭素化の促進に関する法律」に基づき、二酸化炭素の排出の抑制に資する建築物を認定する制度です。所管行政庁による「低炭素建築物新築等計画」の認定を受けることで、税制優遇措置や容積率の特例を受けることができます。所管行政庁への低炭素建築物新築等計画の認定申請に先立ち、登録建築物調査機関、登録住宅性能評価機関等の技術的審査を受けることができます(技術的審査の活用とその範囲については所管行政庁により取り扱いが異なります。)



住宅性能表示制度

「住宅の品質確保の促進等に関する法律」(平成12年4月1日施行)に基づき、良質な住宅を安心して取得できる市場を形成するために作られた制度です。構造耐力、省エネルギー性、遮音性など住宅に必要な性能が、統一されたルールで表示されますので、性能の確認や比較がしやすくなります。評価は国に登録された第三者機関(登録住宅性能評価機関)が行っています。

長期優良住宅 認定制度

「長期優良住宅の普及の促進に関する法律」に基づき、長期にわたり良好な状態で使用するための措置が、構造及び設備について講じられた優良な住宅を認定する制度です。所管行政庁による「長期優良住宅建築等計画」の認定を受けることで、住宅ローン減税(所得税、個人住民税)、登録免許税、不動産取得税、固定資産税の税制上の優遇を受けることができます。所管行政庁への長期優良住宅建築等計画の認定申請に先立ち、登録住宅性能評価機関の技術的審査を受けることができます(技術的審査の活用とその範囲については所管行政庁により取り扱いが異なります。)



Osaka Environmentally Friendly Architecture Award



OSAKA, KANSAI, JAPAN
EXPO
2025



©Expo 2025

監修：大阪府都市整備部住宅建築局建築環境課
大阪市計画調整局建築指導部建築確認課

発行：大阪府都市整備部住宅建築局建築環境課
〒559-8555 大阪市住之江区南港北1-14-16
大阪府咲洲庁舎(さきしまコスモタワー)27階
電話 06-6210-9725 FAX 06-6210-9714

このパンフレットは次の団体様のご協力により印刷いただいたものです。
(公社)大阪府建築士会、(公財)大阪府都市整備推進センター、(一財)大阪建築防災センター、
(一社)大阪府建築士事務所協会、(一財)日本建築センター、(一財)日本建築総合試験所、
(一社)不動産協会関西支部、近畿建築確認検査協会

発行月：令和6年1月